

2008年を振り返って

～新たな肥料産業の役割

2008年を振り返ってみる。世事一般では、今年7/7～9日：洞爺湖サミット、8/8～24日：北京オリンピック、9/1：福田首相退陣、8/8：グルジア紛争、9/15：リーマン破綻、未曾有の金融危機、11/5：米国大統領選挙などネズミ年に相応しい騒々しい年であった。農業、肥料関係では「食の不祥事」「世界穀物価格高騰」「熾安・加里市場最高値」「全農肥料価格大幅アップ」「農商工連携」「肥料高騰対策」等など中東戦争がきっかけとなった石油危機を超える騒動の年となった。

三菱商事系肥料メーカー5社が統合し、8/1に誕生したエムシー・ファートコム社は、生産量で業界1、2位を争う巨大メーカーとなり肥料業界の大きな注目を浴びた。10/16経団連会館で開催された第12回菱肥会総会では経済ジャーナリスト財部誠一先生の司会によるパネルディスカッションが大いに盛り上がり、農業補助金の活用から農業イノベ

2008年のザ・マックジャーナル

月	日	主な内容	月	日	主な内容
1	9	・年頭に当たって2008年大予測	6	11	菱肥会海外研修報告 流通が選ばれる時代が来た
	23	チャイルドケアセンターの食育活動 平成19年サラ川決定版		25	・エムシー・ファートコム誕生 ・食の安全を大いに語る ・日本GAP協会新体制決まる
2	13	・アグフレッシュの到来 ・巨星墮つ ・高級果実の輸出大幅増加	7	9	・農商工連携フォーラム開催 ・エムシー・ファートコムの経営方針
	27	・農業イノベーション ・遠めがね 内憂外患		23	肥料商の新たな機能を目指して 革新的農業「グロイノベーション08」開催 土を根を作物を守る肥料を製造
3	12	外国人旅行者が日本の味を世界へ 菱肥会開催のお知らせ 全農肥料価格期中改定と中国産肥料輸入	8	13	肥後銀行GAPセミナー 熊本2008 エムシー・ファートコム(株)8月より創業 ベジフルレシビ〜ゴーヤ
	26	FOODEX JAPAN2008開催 遠めがね 青果物流通の変化		9	10
4	7	・GAP全国大会 緊急報告～コメ国際相場急騰	24		・グリーンツーリズム・イン 安心院 全肥商連第53回定時総会開催 ・JGAP導入の現場
	23	・国産大豆の復活に期待 飲んで改善！メボリックシンドローム ・JGAPニュース	10	8	・農商工連携北海道でスタート 地方の自立・自活に向けた取り組み
5	14	・21世紀新農政2008 JGAP認証農場が淡路島に今夏誕生 ・MACのソムリエが見た家庭料理 の食料自給率		22	第12回菱肥会総会開催 記念講演 財部誠一氏 パネルディスカッション
	28	北海道洞爺湖サミットにむけて 遠めがね ・マックスがつかなく赤きタスキ	11	10	燃油 肥料高騰対策始まる 食と農の架け橋のキーワードは技術と連携
		26		・GAPセミナー2008in鹿児島 中島隆太郎氏台湾より特別感謝状授与 菱肥会総会当社社長挨拶	

(次ページへ続く)

遠めがね

今年を振り返ると、前半は市場最高値をつけた熾安、塩化カリをはじめアンモニア、尿素、硫黄といった全ての肥料原料が急騰したが、リーマンショック後は産業用原料ともなるアンモニア、硫黄市況は一変して急落する激動の年であった。言い換えると、海外市況に右往左往した肥料市場ともいえる。また、年初の餃子事件、北京オリンピック、肥料輸出関税の大幅アップ、メラミン入り乳製品など中国の存在感を改めて認識させられた年でもあった。日本では、全農の肥料価格大幅アップ、それに即応した農水省の肥料高騰対策（前年比価格上昇の70%助成する制度）の発表など普段マスコミの話題にも乗らない肥料が注目を浴びた。食品不祥事は事故米に対する監督不行き届きで農水省改革まで及んだが、食品業界の国産志向の流れを作った一面もあった。12月に入っても激動の流れは静まることなく、農水省は10年後に食料自給率を50%に引き上げる新農業指針のなかに農地法改正を織り込むことを発表した。企業参入まで容認しており農業への危機感の高まりが後押しした結果ともいえる。更には、金融危機による保護貿易の台頭を懸念したWTO交渉が決着に向けて足取りを速めている。コメの場合、高関税を維持する代償としてミニマムアクセスによるコメ輸入が20～30万トン増える内容となっている。このように、農業環境はパラダイムシフトの兆候が見えており目を離すことができない。世界に目を、足は日本に、マックジャーナルは今後とも皆様と共に歩みます。

(前ページより続く)

ションに亘る多岐のテーマについて意見交換がなされ、新たな肥料商の役割についての示唆があった。また、JGAPに関しても普及が進んだ年であった。日本GAP協会の指導員講習に肥料業界から600名を超える参加者があったが、彼らが指導した14農場がJGAP認証を取得した。北海道、関東北、九州ではJGAPセミナーが盛んに開催され、複数の地銀が参加するなど業種を超えた動きとなってきた。事故米以降は焼酎メーカーなど食品業界もJGAPに関心を寄せるようになった。“JGAP普及を通して「安定した質の高い肥料販売」の実現”を目指した1年であったが、その兆しは見えてきた。

農業産業化にJGAPと農商工連携は必須条件

昨年7月に「農商工連携など」の法律が国会の承認を経て施行されたが、これは経済産業省と農水省が共同で、地方の主産業である農業と食品加工などの中小企業が有機的に提携するのを支援する画期的な案件である。地域の地産地消型事業発展にも役立つが、東京のケーキ屋さんが新潟県の米生産農家と組み、米粉パンを製造・販売する仕組み作りの手伝いをするに加え、大阪府の機械屋さんが米粉作りで提携することも可能である。農業の付加価値化を全ての産業が応援するものであるが、農業現場の生産工程管理を通して農産物の安全を担保するJGAPは農商工連携の入り口に存在する。行政も農業産業化に向けた法律改正を準備するものと思われ、肥料業界も無関心ではいられない。

食と農の架け橋のキーワードは「技術と連携」

～ - 2011に向けて 第12回菱肥会総会 当社上杉社長挨拶全文 (最終回)

日本GAP協会は今年の理事会において、生産者に加えイオン、イトーヨーカ堂、生協、CGCグループなどの小売業界の実務責任者が理事に就任しました。また、元農水省次官が個人の資格で会長に選出されました。生産・流通・消費の代表が参加する組織に衣替えしたことから、JGAPの普及は今後加速することは間違いありません。さらに、来年には青果物、穀物に加えお茶が対象作物となることから、JGAP農場は飛躍的に伸びることが期待されます。土壌分析をベースとした施肥指導、農薬防除などの農家への安全の提供に加え、JGAPの指導をすることで、安定した肥料販売を実現しましょう。

経済産業省は「地域資源」、「新連携」といった枠組みで中小企業の支援を実践してきましたが、農業生産者も合わせて支援する新たな枠組みを作りました。それが、7月に施行となった農商工連携促進法です。中小企業と農業生産者が組んで新たな事業を創業する案件に、1件3千万円を限度に補助します。事業計画作成やマーケティング支援などソフト面の支援となりますが、農業にIT技術を導入することとか、飼料米栽培と養豚事業の組み合わせで豚肉のブランド化を図ることとか、野菜の栄養価を加味した乳製品づくりなどその応用範囲は広いのが特徴です。地域を超えた提携、大企業との提携なども認められており、皆様と一緒に検討してみませんか。

先に、九州菱肥会、三菱商事九州支社、熊本県の協力を得て、肥後銀行はJGAPの価値を問う農業シンポジウムを開催致しましたが、農業生産者、肥料商、食品流通会社、県庁、農業試験場から200名を超える参加者がありました。三菱商事のネットワークを活用してJGAPの普及と促進を実践する試みでしたが、地方銀行のビジネスマッチング機能が入りますと農商工連携事業への展開が見えてきます。このような研修機会をも設けながら、異業種との方々との連携も視野に入れたいと思っております。皆様の引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

私どもは、菱肥会会員の皆様と共に、直面する難局を乗り越え、将来に向けて飛躍するため、精一杯頑張ります。やる気、根気、元気の三つの気をしっかり持ち、V-2011の実現に向けて力を合わせましょう。最後になりますが、ご参加いただきました会社の発展とご臨席賜りました皆様方のご健勝を祈念して、挨拶に替えさせていただきます。

年賀状を書く時期になってきました。年賀状には縁起の悪い言葉を使うのはタブー。「去年はお世話に...」とつい書きそうですが、新年に「去る」は縁起が悪いので、年賀状には「昨年」「旧年」を。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp